在宅生活を支える

地域包括ケア病棟

いつまでも
元気に生活したい！

「もう少し歩けるようになりたい」「トイレにひとりで行きたい」
「自分で訓練できるようになりたい」など、一人ひとりのリハビリ目標はさまざまです。
多職種で連携し、より効率的で効果的なあなたに合ったリハビリを提供します。

社会医療法人 北斗
十勝リハビリテーションセンター

生活目標 × 集中的なリハビリ × 自主訓練指導

十勝リハビリテーションセンター地域包括ケア病棟では
在宅生活の維持と機能回復に特化した

集中的なリハビリテーションで目標の達成を促します!

1対1での個別リハ × ロボティクスリハ × スマートリハ

理学療法
起き上がる、立つ、歩くなどの基本動作が日常生活で安全に、円滑に行えるよう支援します。関節運動や筋力訓練などの運動療法により柔軟性と筋力を改善させ、不自由な手足や体を援助しながら一緒に動作練習を行います。

作業療法
在宅生活で困っている具体的な生活動作が出来るように支援します。例えば、「最近、服を着るのが難しくなった」など、具体的な生活動作に対し、その獲得を目標としたリハビリをマンツーマンで行います。

言語聴覚療法
飲み込みの問題や失語症も必要に応じて対応します。

Honda歩行
自動車などで知られる「本田技研工業株式会社(HONDA)」が医療用に提供している機器です。内蔵された角度センサーのコンピュータ制御により足の曲げ伸ばしをアシストします。歩く練習時の疲労軽減が出来ます。

ReoGo® J
コンピューター管理により、安全かつ患者さんの状態に合わせた多彩なリーチ訓練の反復が可能です。当院では自主訓練にも導入し、回復が難しいとされる上肢麻痺に対しても、質・量の高いリハビリを提供しております。

C-mill(歩行・バランス訓練)
正面のモニターや足元に表示された課題を行いながら、歩きやすい歩行を獲得するための訓練を行います。また、立つことが不安定な方にはバランス訓練や部分的に体をサポート(免荷)した環境で歩行訓練など行うことができます。

アマデオ(手指訓練)
指の筋力や動かせる範囲など評価を行い、それに基づいて手指の訓練を行います。指をスムーズに動かす訓練や、指一本ずつを個別に動かす訓練など患者さまの目的に合わせて課題を設定し、訓練することができます。

実例紹介 手足が機能回復し、歩行と日常生活動作も改善! 両足の筋力Upに伴い、歩行速度も改善!

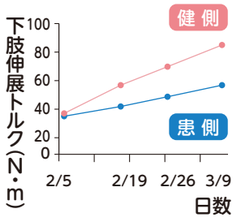
手の状態
作業課題を利用し、右手の練習を行いました。Reogo®jとアマデオを自主訓練として取り入れました。

機能場面 ボックス&ブロックテスト(BBT)

ブロック移動個数は1個から15個に増えました。右手を使って、洗顔や整髪ができるようになりました。

下肢筋力
立ち座り練習やゴムバンド、重りなどの抵抗運動を利用し、バランスよく筋力をつける練習を行いました。

両足の筋力



	左(患側)	右(健側)
2月5日(入院時)	36.5(N・m)	37.7(N・m)
3月9日(退院時)	59.3(N・m)	87.6(N・m)
変化量	22.8(N・m)	49.9(N・m)

両足の筋力は大幅に増え、椅子からの立ち座りや歩く場面で「以前より楽になった」とのお話しがありました。

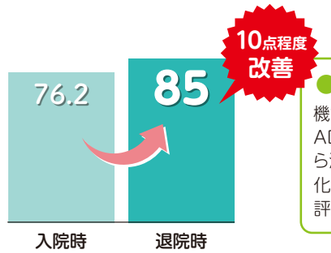
歩　行
Honda歩行、C-millなどを利用し、バランスよく両足を使う歩行練習を行いました。

10メートル歩行

速度の向上に伴い、10秒以上時間が短縮しました。足のつまずきやふらつきも軽減し、歩行も安定しました。

日常生活の向上
病棟職員と協力し、在宅環境に合わせた乗り移りや着替え、トイレなど日常生活動作練習を行いました。

日常生活動作(FIM)



●FIMとは
機能的自立度評価(FIM)は、ADLの自立度を最低8点から満点126点で点数化する標準化された評価法です。

全体で10点程度の改善がみられました。特に、トイレや移動項目での改善が目立ち、介助量が軽減しています。

地域包括ケア病棟対象となる方

・自宅や介護施設に療養中の方で、身体機能が低下しリハビリが必要な方。
・急性期治療を終えた方で、在宅復帰に向けてリハビリを継続したい方など、在宅で生活するための課題や目標をご本人・ご家族と共有し、集中的にリハビリを実施。退院後も長く能力を維持できるよう、自主訓練の指導など生活指導も行います。

疾患・病態

- 脳卒中後遺症
- パーキンソン病
- 骨折・人工関節術後
- 麻痺の筋肉が突っ張って痛みを生じる
- 関節が硬くなり動きが鈍くなった
- 筋力・体力が落ちてきた

生活の不自由さ

- 転倒する回数増えてきた
- 散歩で長く歩けなくなった
- トイレや着替えの介助が増えてきた
- スムーズに起き上がったり、立ち上がったりすることが出来ない
- 浴槽から立ち上がれず介助が必要になった

更なる改善

- 料理や掃除が上手にできるようになりたい
- 近所のスーパーに歩いて買物に行きたい
- 麻痺している手がもう少し動いて、物がつかめるようになりたい
- 足の装具を付けなくても、家の中を歩けるようになりたい

このような症状の方もご相談可能です

脳卒中の後遺症・痙縮
・ボトックス（痙縮を軽減する注射）による治療
・手が握ったまま開きにくい
・肘が曲がって伸ばせない
・つま先立ってかかとがつかない

パーキンソン病
・振戦（手足の震え）
・動作緩慢（動きが遅くなり少なくなる）
・筋固縮（筋肉がこわばる）
・姿勢保持障害（体のバランスが悪く倒れやすくなる）

●入院期間は60日を限度としています（症状によって異なります）　●費用は医療保険適応となっております

ご相談・お問い合わせは下記までお気軽に電話ください

北斗病院 カイラス棟1F

患者サポートセンター

☎0155-47-7500

FAX 0155-47-3083

〈受付時間〉●月～金曜：9時～17時　●土曜：9時～12時

社会医療法人 北斗
十勝リハビリテーションセンター

〒080-0833 帯広市稲田町基線2番地1 ☎(0155)47-5700